

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、緩やかな回復の動きに足踏み感がみられる。先行きについては、やや慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲37.1と、前期比で8.1ポイント減少し、2期ぶりに悪化した。業種別では、製造業は2期ぶりに悪化し、非製造業は3期ぶりに悪化した。先行きについては、「良い方向に向かう」が前回調査から増加した。
- 売上げD Iは4期ぶりに悪化した。
- 資金繰りD I・採算D Iは2期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は2期連続で減少した。
- 来期については、売上げD I・資金繰りD I・採算D Iは、当期D Iより改善する見通しである。また、設備投資実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：平成30年10～12月期、「当期」：平成31年1～3月期、「来期(先行き)」：平成31年4～6月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲37.1となり、2期ぶりに悪化した。前期比で8.1ポイント減少し、前年同期比で7.5ポイント減少した。

業種別にみると、製造業(▲34.7)は2期ぶりに悪化し、非製造業(▲39.0)は3期ぶりに悪化した。

<景況感D Iの推移>

	当 期 (H31.1-3)	前 期 (H30.10-12)	前年同期 (H30.1-3)
全 体	▲37.1	▲29.0	▲29.6
製 造 業	▲34.7	▲25.0	▲24.4
非製造業	▲39.0	▲32.2	▲33.8

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は8.9%（前回調査(H30.10-12月)比+1.5ポイント）、「悪い方向に向かう」とみる企業は26.2%（前回調査比▲0.7ポイント）だった。

先行きD Iは▲17.3（前回調査比+2.2ポイント）と、2期ぶりに改善した。

<来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (H31.4-6)
全 体	8.9%	26.2%	▲17.3
製 造 業	10.1%	24.5%	▲14.5
非製造業	7.9%	27.6%	▲19.6

2 売上げについて

売上げD Iは▲28.2（前期比▲20.8）となり、4期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに4期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (H31. 1-3)	前 期 (H30. 10-12)	前年同期 (H30. 1-3)	来期見通し (H31. 4-6)
全 体	▲28.2	▲7.4	▲21.9	▲12.0
製 造 業	▲31.2	1.2	▲19.7	▲7.1
非製造業	▲25.9	▲14.3	▲23.7	▲15.9

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲20.6（前期比▲7.9）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (H31. 1-3)	前 期 (H30. 10-12)	前年同期 (H30. 1-3)	来期見通し (H31. 4-6)
全 体	▲20.6	▲12.7	▲18.8	▲14.0
製 造 業	▲21.5	▲8.7	▲17.8	▲11.7
非製造業	▲19.9	▲15.8	▲19.6	▲15.8

4 採算について

採算D Iは▲29.8（前期比▲11.4）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (H31. 1-3)	前 期 (H30. 10-12)	前年同期 (H30. 1-3)	来期見通し (H31. 4-6)
全 体	▲29.8	▲18.4	▲27.1	▲19.4
製 造 業	▲30.6	▲12.1	▲27.2	▲16.3
非製造業	▲29.1	▲23.5	▲27.0	▲22.0

5 設備投資について

実施率は21.4%となり、2期連続で減少した。来期も減少する見通し。

業種別にみると、製造業は4期ぶりに減少し、非製造業は2期連続で減少した。

来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (H31. 1-3)	前 期 (H30. 10-12)	前年同期 (H30. 1-3)	来期見通し (H31. 4-6)
全 体	21.4%	23.1%	21.1%	18.7%
製 造 業	24.9%	28.7%	25.4%	22.5%
非製造業	18.6%	18.7%	17.6%	15.7%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降をご覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・自動車関連の受注が落ち込んでおり、景況感は下がってきている
- （輸送用機械器具）・中国向けが減ったとの声が多い
- （電気機械器具）・中国絡みで暗雲漂っている
- （プラスチック製品）・半導体関連が不調。年末ごろから引き合いが少なくなってきた
- （印刷業）・業界としては一番受注が多い時期であるが、景況感は例年どおり普通である
- （百貨店）・暖冬により冬物が動かず、都心ではインバウンドが振るわず、よくない
- （情報サービス業）・需要は多いが人手不足である
- （建設業）・不況とまではいわないが、若干悪くなったと感じている

【売上・採算】

- （輸送用機械器具）・売上げは減ったが、価格交渉や社内合理化の成果で、採算性は改善気味である
- （金属製品）・半導体関連の受注が減少した
- （食料品製造）・原材料価格の高騰を受注単価に転嫁できず、赤字決算となる見込み
- （銑鉄铸件）・半導体関連の設備投資低迷により、受注が落ちている
- （スーパー）・野菜は相場の影響で単価が安いため、点数が売れても利益にならない
- （百貨店）・粗利の高い婦人服などの売れ行きが厳しいため、苦戦している
- （サービス業）・受注単価が上がってきており、採算性は良くなった

【今後の見通し】

- （一般機械器具）・原材料価格も上がることから、悪い方向に向かう
- （輸送用機械器具）・日米間の自動車関連の通商協議が心配である
- （電気機械器具）・この時期は大体来期の予想ができるが、今年は先行き不透明である
- （金属製品）・受注が弱含みであり、悪い方向へ向かうと感じている
- （印刷業）・改元の特需により良い方向に向かうと思っている
- （スーパー）・大手も含め、厳しいと思う